

# 福島原発かながわ訴訟原告団資料集

## 暮らしを返せ！ ふるさとを返せ！

痛恨のあの日から、3年半。メルトダウンした福島第1原発からは、大量の放射性物質と汚染水が流れ続け、多くの命が失われ、いまま失われ続けています。事故関連死は1400人以上といわれ、被災者の自殺も年々増え続けているのです。

「直ちに、健康には影響はない」というフレーズを尻目に、今年8月までに1000人を超す子どもに甲状腺がんが見つかっています。100万人に1人（厚労省統計）と言われていた数字に比べれば300倍の値です。

しかしながら、被害の実相も、事故原因も、責任の所在も、未だ闇の中です。

そして、いまなお、ふるさとを離れ、避難生活を送る14万人の人々。

その中から7千人近い人たちが、避難先の18の裁判所で、国と東電を被告とした集団訴訟を闘い始めています。

神奈川県に避難した私たち35家族・93人も、昨年9月から今年3月にかけて、被害者を見捨てる「棄民」を拒否し、人としての尊厳を取り戻したいという思いから、国と東京電力を被告として横浜地方裁判所に損害賠償請求の集団訴訟を起こしています。

この訴訟とは何なのか―その答えを探す一端として、今回、私たち「かながわ訴訟原告団」は、この訴訟の「資料集」をまとめてみました。この冊子が、全国の避難者たちの闘いの狼煙（のろし）の一つとなり、またこの闘いに心を寄せていただける方々の、理解と共闘を進める一助になればと願っています。

## この1冊で「かながわ訴訟」がわかる

なぜ訴訟を起こしたのか。何を訴え、何を求めているのか。1年間どう闘い、どう評価されてきたのか―福島原発かながわ訴訟の原点と内容を1冊にまとめた『資料集1』（写真）ができました。

表紙は避難区域の双葉郡楡葉町の空をバックに、南相馬市在住の詩人・若松丈太郎さんの詩「ひとのあかし」をあしらい、第1部「手記」では、原告を含む避難者9人の生々しい体験と痛切な想いがつづられています。

第2部は、弁護団が横浜地裁に提出した9万字を超える訴状の全文を、項目ごとに読みやすく編集して収録。これに対する国と東京電力の答弁書の要旨を載せ、法廷での論戦の構図が読み取れるようにしました。

第3部にはフォトジャーナリスト・広川隆一さんが空撮した福島第1原発の全景のほか、『原告団だより』の縮刷版、報道記事、全国の集団訴訟一覧などの資料を収録しています。



第1部「手記」  
第2部「訴状」  
第3部「資料」

A5判  
オールカラー  
216頁  
1,500部限定  
1,000円（税別）で  
希望者にお分けします。

2014年9月発行  
頒布中！  
収益は原告団の  
活動費になります。



発行●福島原発かながわ訴訟原告団

〒231-0011 横浜市中区太田町4-55 横浜馬車道ビル6F 馬車道法律事務所内  
TEL：090-2742-5572（村田）／080-3155-8521（岩淵）FAX：045-662-4831  
E-mail→kanagawagenkokudan@gmail.com  
H.P.→http://110311fkg.jimdo.com/  
【郵便振替】口座番号：00230-5-136119 加入者名：福島原発かながわ訴訟原告団

